

これまでの研究テーマ

4. 地域 班

- 2009 年度：東鳴子温泉活性化に向けて都会の若者からの提言
(担当教授：久恒啓一)
フィールドワーク：宮城県東鳴子温泉「大沼旅館」
- 2011 年度：震災と日本再生 東北グローバル・イノベーション(水産業)
(担当教授：久恒啓一・長田貴仁・木村知義)
フィールドワーク：宮城県東鳴子温泉「大沼旅館」、河北新報社、東の食福幸祭(国立代々木競技場)、東北「道の駅」大震災研究プロジェクト報告会(せんだいメディアテーク)、宮城県仙台市「浪分神社」、合同会社Oハグツ(宮城県石巻市雄勝町)、東日本大震災被災地視察(女川町、松島町)
- 2012 年度：東北を活性化するためのコミュニティ形成：福島県平田村の事例
(担当教授：久恒啓一・長田貴仁・松本祐一)
フィールドワーク：道の駅「林林館」(宮城県登米市)、道の駅「上品の郷」(宮城県石巻市)、道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」(宮城県大崎市)、道の駅「三本木」(宮城県大崎市)、道の駅「津山」(宮城県登米市)、道の駅「路田里はなやま」(宮城県栗原市)、道の駅「ひらた」(福島県石川郡)、ジュビアランドひらた、若清水酒造株式会社(福島県石川郡)
- 2013 年度：湯河原の活性化 ～介護者うつ予防の提案～
(担当教授：緒橋正幸・中澤弥)
フィールドワーク：湯河原温泉観光協会、有限会社ピース、日本医療病院管理学会、シンガポール航空
- 2014 年度：震災3年後から見る水産都市の地域創生
～コネクタールとソーシャルイノベーターの重要性の観点から～
(担当教授：中庭光彦・緒橋正幸・出原至道・中澤弥・木村知義)
フィールドワーク：復興商店街(宮城県気仙沼市)、南三陸町防災対策庁舎、情報交流館(宮城県女川町)、石巻港朝市、陸前高田、気仙沼市役所
- 2015 年度：ワークライフバランスの観点からみた、「若者移住による地方活性化」の方向性を探る
(担当教授：中庭光彦・緒橋正幸・河野龍太・木村知義)
フィールドワーク：霞ヶ丘長久手市暮らし文化館「たつせがある課」、三重県伊賀市「もくもくファーム」、長野県飯田市「多摩川精機株式会社」
- 2016 年度：雇用安心循環モデルの提案
(担当教授：中庭光彦・中澤弥)
フィールドワーク：柏地域医療連携センター(千葉県柏市)、道の駅とみうら「枇杷倶楽部」(千葉県南房総市)、徳島県神山町「神山モデル」
- 2018 年度：ソーシャルキャピタルから紐解く持続可能な地域社会
～幸せな地域社会をつくるためには～
(担当教授：野坂美穂・後藤晶・木村知義)
フィールドワーク：NPO 法人ふるさと回帰支援センター、山梨県大月市、高知県高知市、仁淀川町、島根県隠岐の島町、岐阜県高山市でのインタビュー調査
- 2019 年度：地域活性化の現状と課題 今後の方向性とは
(担当教授：加藤みずき・西村知晃・廣田敬則)
フィールドワーク：FujiSawa SST、横浜市経済局新産業創造課、川崎ビジネスワールド 2019 オープンイノベーション マッチングフォーラム、墨田区商店街連合会、新高門寺通商店街振興組合、果樹地蔵通り商店街、シンガポール ホーカーズ、永山商店街、飯能市エコツアー、奥武蔵観光協会

5. 環境・エネルギー 班

- 2009 年度：グリーン・ニューディール
(担当教授：菅野光公・長田貴仁)
- 2012 年度：地域特性を生かしたエネルギー自立化モデルの可能性
(担当教授：菅野光公・木村知義)
フィールドワーク：外部セミナー「風力発電が日本のエネルギーの一翼を担うために」(首都大学東京秋葉原サテライト)、外部セミナー「電力系統のスマート化を支えるパワーエレクトロニクス技術の新展開」(東京大学本郷キャンパス)、外部セミナー「日立イノベーションフォーラム2012」(東京国際フォーラム)、岩手県葛巻町(グリーンパワーくずまき、森のこだま館、老人介護施設アットホームくずまき、葛巻林業、森のそば処、エコ・ワールドくずまき風力発電、木質バイオマス・ガス化発電設備、バイオガスパラント、ゼロエネルギー循環住宅、葛巻中学校)、多摩市清掃工場、リサイクルセンター
- 2013 年度：スマートユニバーシティ構想
(担当教授：長田貴仁・荻野博司)
フィールドワーク：唐木田ゴミ焼却施設(東京都多摩市)、外部セミナー「大学連携スマートキャンパスシンポジウム」(東京工業大学大岡山キャンパス)
- 2016 年度：地震発生後の対応について
～ICTを活かした問題の解決！次の災害に備えて～
(担当教授：久保田貴文・荻野博司)
フィールドワーク：東京都墨田区本所防災館、熊本県(阿蘇大橋、東海大学農学部地区、阿蘇神社、熊本城、西原村仮設住宅、益城町総合体育館避難所、八代フェリー港、くまもと文学・歴史館)

6. DX(デジタル・トランスフォーメーション) 班

※2017～2019年度はAI班

- 2017 年度：高齢者の明日へ ～AIを活かし共生の道をひらく～
(担当教授：久保田貴文・大塚智美・木村知義)
フィールドワーク：エムール株式会社、中国黒龍江省、湘南台文化センター太極拳クラブ、社会福祉法人合掌苑「鶴の苑」
- 2018 年度：暮らしを助ける AI としごとを取って代わる AI
(担当教授：久保田貴文・渡邊泰典・久恒啓一)
フィールドワーク：株式会社デコム、株式会社構造計画研究所
- 2019 年度：AI 活用の現在
(担当教授：久保田貴文・木村太一・高橋恭寛・渡邊泰典)
フィールドワーク：株式会社サンシャインシティ 60VR 体験、Airbnb を利用し民泊を開いている二宮町、Tiny Better 株式会社、世界遺産百舌鳥古墳群の VR 体験
- 2020 年度：DX によるこれからの社会変化 ～イノベーションを軸に～
(担当教授：佐藤文平・崎濱栄治)
- 2021 年度：自動運転とスマートシティ
(担当教授：崎濱栄治・碓立亮士・太田哲)

多摩大学 インターゼミ (社会工学研究会) 寺島実郎学長直轄ゼミナール

Tama University Inter Seminar

九段サテライト周辺および史跡等



■ 九段サテライト

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-9-17 寺島文庫ビル3階
地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
「九段下駅」(5番出口) 徒歩3分
地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
「神保町駅」(A2出口) 徒歩7分
E-mail: koho@gr.tama.ac.jp



■ 多摩キャンパス (経営情報学部)

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL: 042-337-1111 (代表)

■ 湘南キャンパス

(グローバルスタディーズ学部)
〒252-0805 神奈川県藤沢市円行802
TEL: 0466-82-4141 (代表)

■ 品川サテライト

(大学院 経営情報学研究科)
〒108-0075 東京都港区港南2-14-14
品川インターシティフロント5階
TEL: 03-5769-4170 (代表)

インターゼミ(社会工学研究会)～文献研究とフィールドワーク

インターゼミ(社会工学研究会)は、毎週土曜日(16:20～17:50)、九段下寺島文庫3階の多摩大学九段サテライトで開講している寺島実郎学長の直轄ゼミナールです。

経営情報学部・グローバルスタディーズ学部の2学部と社会人大学院生および卒業生、修了生を含めた約40人を5つのチームに分けて、それぞれに年間課題として研究テーマを与え、文献研究とフィールドワークでチームとして課題に対する論文を書き上げます。1つのチームに、両学部・大学院の教授が2名以上配置され、世代を超えた共同研究となっています。

インターゼミが、なぜ都心の九段サテライトで開講されているか。それは九段周辺にある様々な史跡と神田神保町の古本屋街の存在です。ゼミの前後に史跡を巡り、神田古本屋街に足を向け、本を発見し、手に取り、考え、自分の頭を鍛えるという経験を積み上げます。

本気で大学・大学院生活の間に、1つのテーマにぶつかって、勉強し自らを錬磨しようという人が、2つの学部と大学院の交流を通じたスパークのあるゼミに参画しています。



毎週行われる世界と日本の情勢を踏まえた寺島学長講話

ゼミ概要～学長講話・グループワーク



寺島学長によるチーム別の論文指導

春学期(4月～7月)、秋学期(9月～1月)の毎週土曜日の5時間目(16:20～17:50)、多摩大学九段サテライト(東京都千代田区九段北1-9-17 寺島文庫ビル3階)にて開講。

8月に、箱根にて1泊2日の夏季合宿をおこなう。

毎回の講話は、前半寺島実郎学長による、その週の世界と日本の出来事等の講話と教授陣のミニ講義。後半は、チームごとのグループワーク。

年3回(6月:研究計画発表、8月(合宿):中間発表、12月:最終発表)、学長、両学部・大学院の教授陣およびゼミ生に向けての発表をおこなう。

実績～企業・自治体のトップへの提言多数



サービス・エンターテインメント班の3年間のディズニー研究の論文を株式会社オリエンタルランド代表取締役社長(兼)COOの上西京一郎様に贈呈し、感謝状をいただく。(2012年4月16日)



復興構想コンテスト～震災復興から日本創生へ～において、地域班が優秀作を受賞。(2012年4月20日)



多摩学班が加山俊夫相模原市長を訪問し、相模原の将来構想についての意見交換。(2014年12月10日)

これまでの研究テーマ

1. 多摩学 班

- 2009年度:多摩ニュータウンの活性化に関する研究
(担当教授:酒井麻衣子・松本祐一)
- 2010年度:八王子千人同心、絹織物産業、民話、多摩川の水利、市民農園
(担当教授:中庭光彦・松本祐一・菅野光公・長田貴仁)
- 2011年度:中里介山・白洲次郎にみる成り上がり新中間層と多摩地域の関係
(担当教授:中庭光彦・松本祐一・諸橋正幸)
フィールドワーク:武相荘、羽村市郷土資料館
- 2012年度:浦賀を中心に見た 江戸幕府の対外貿易と海防
(担当教授:中庭光彦・諸橋正幸)
フィールドワーク:浦賀コミュニティセンター(郷土資料館)、浦賀城
- 2013年度:自由民権運動にみる多摩のDNA
(担当教授:中庭光彦・奥山雅之・木村知義)
フィールドワーク:町田市立自由民権資料館
- 2014年度:2040年多摩の展望～50年に一度の交通革命をこえて～
(担当教授:奥山雅之・荻野博司)
フィールドワーク:リニア中央新幹線駅予定地、さがみはら産業創造センター、アメリカ車使用補給基地、まちだテクノパーク、南大沢アウトレット、リニア中央新幹線資料センター(山梨県都留市)、羽田ヤマトクロノケート、相模原博物館、JAXA、相模原 IC、横田飛行場、日光(アジアダイナミズム班合同FW)、相模原商工会議所、相模原市長民会
外部セミナー「リニア・新幹線・相模線」3回合同開催講演会
- 2015年度:多摩ニュータウン2.0
～ニュータウン再生に向けた多摩版CCRCの可能性と提案～
(担当教授:奥山雅之・相原伸也・荻野博司)
フィールドワーク:高蔵寺ニュータウン(名古屋市)、中部大学、豊田産業技術記念館
- 2016年度:多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究
～シニアと学生との緩やかなネットワークの形成を中心に～
(担当教授:奥山雅之・木村知義)
フィールドワーク:株式会社エニタイムズ「困りごとマッチングサービス」、多摩市環境実行委員会主催「環境ウォッチング」、ヤマト運輸株式会社「ネコサポステーション」、合同会社たまプラ・コネク「学びあいシステム」、NPO法人リブ&リブ「世代間交流ホームシェア」
- 2017年度:若者にとって魅力ある多摩地域の創生～若者呼び込みに向けた提案～
(担当教授:丹下英明・野坂美穂・荻野博司)
フィールドワーク:多摩市でのアンケート調査(多摩市内イベント会場、多摩センター駅前、永山駅前)コレクティブハウス聖蹟
- 2018年度:ジェロントロジーから見た多摩への提言
～人生100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは～
(担当教授:丹下英明・初見康行・荻野博司)
フィールドワーク:RLZAPグループ株式会社、多摩市役所、東京都健康長寿医療センター、朝霞ぐらんぱの会、株式会社キャリア、ハローワーク府中、野村資本市場研究所
- 2019年度:多摩地域の産業から未来を描く 一住み続けたい街の実現に向けて～
(担当教授:長島剛・佐藤文平・荻野博司)
フィールドワーク:川崎市経済労働局イノベーション推進室、株式会社愛知銀行法人営業部地域連携グループ、一般社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA協会)、第一勧業信用組合連携企画部、相模原市環境経済局経済部、経済産業省関東経済産業局、埼玉県県民生活部、労働部、日本理化学工業株式会社、株式会社アレアメディア、産業能率大学、株式会社さがみはら産業創造センター、オリオン機械工業株式会社、川崎市臨海部国際戦略本部国際戦略推進部、東京都統計局行政部多摩振興担当、東京株式会社
- 2020年度:次世代に届けたい多摩地域の在り方
～30年後の次世代が住み続けたい多摩地域になるために～
(担当教授:長島剛・山田大介・荻野博司)
- 2021年度:「多摩地域」における住みやすさとは～地域のネットワークの視点から～
(担当教授:長島剛・落合孝彦・内藤旭恵)



議論が白熱するグループワーク

3. サービス・エンターテインメント 班

- 2009年度:ウォルト・ディズニー、ディズニー社、東京ディズニーランド
(担当教授:渡邊泰典)
フィールドワーク:東京ディズニーランド、サンリオピューロランド
- 2010年度:①ディズニー:ディズニーキャラクタービジネスの成功要因に関する考察
フィールドワーク:東京ディズニーシー
②観光:マンガ・アニメ・ツーリズム
フィールドワーク:宮城県石巻市石ノ森漫画館
(担当教授①②:酒井麻衣子・中澤弥)
- 2011年度:ディズニーにおける人材育成
(担当教授:酒井麻衣子・中澤弥)
- 2012年度:ディズニー海外展開戦略
(担当教授:酒井麻衣子・中澤弥)
フィールドワーク:東京ディズニーランド
- 2013年度:顧客・従業員満足度に関する考察
～多摩大生が企業を選ぶ際に重要視すること～
(担当教授:安田麗一・菅野光公)
フィールドワーク:ゴールドストリート、スターバックスコーヒー、香港ディズニーランド、東京ディズニーランド、和民
- 2014年度:日本を元気にするIRと和風IR
～対アジア・関西圏統合型リゾート構想～
(担当教授:安田麗一・市岡浩子・久保田貴文)
フィールドワーク:株式会社フジテレビ1R事業計画
- 2015年度:訪日リピーターに日本の魅力を発信し日本通を育てるためのSNSの活用～沖縄観光と日本食文化を例として～
(担当教授:久保田貴文・田中孝枝・安田麗一)
フィールドワーク:那覇(東京都港区)、沖縄(アジアダイナミズム班合同)
- 2016年度:湘南藤沢の再武装 ～観光振興による地域の課題解決～
(担当教授:田中孝枝・巴特尔・安田麗一)
フィールドワーク:片瀬江の島周辺(観光案内所、湘南海岸公園、ニエ・アル記念碑、スラムダンク踏切)
- 2017年度:ショッピングモールから見る消費文化
(担当教授:韓準祐・巴特尔・安田麗一・杉田文章)
フィールドワーク:玉川高島屋SC、東急ライズ、GINZA SIX、沖繩ライカム、イクスピアリ、モール・エアポートウォーク名古屋
- 2018年度:日本の消費の現状と今後の展望 ～多摩地域の過去・現在・未来～
(担当教授:大場智美・巴特尔・杉田文章・安田麗一)
フィールドワーク:石川酒造、高橋山明王院金剛寺(高橋不動尊)、Iias TAKAO、羽田クロノケート
- 2019年度:大都市郊外型高齢社会のコミュニティ形成への挑戦
～高齢者の社会参画を促進する地域づくりプラットフォームの構築を中心に～
(担当教授:巴特尔・李崗・杉田文章・安田麗一)
フィールドワーク:東京八王子ビートルズ、筑波大学博識准教授、ROADST八王子
- 2020年度:2020年代の日本の「観光立国」を考える
～「安定」かつ「高付加価値」産業の構築を目指して～
(担当教授:巴特尔・李崗・新美潤・杉田文章・安田麗一)
- 2021年度:コンビニエンスストアの新たな経済・社会的役割
～暮らしの一部から必要不可欠な存在へ～
(担当教授:巴特尔・李崗・荻野博司)